

4. 編集後記

『古代東ユーラシア研究センター年報』第1号をお届けいたします。

本年度、「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として研究プロジェクト「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」が、新たに採択されました。本年度は今後5年間にわたる事業の初年度となります。本プロジェクトは、2007年度～2011年度に文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）として行ってきた研究プロジェクト「古代東アジア世界史と留学生」を引き継ぐものでありますが、新たに「東ユーラシア」という地域を設定し、「人流」を視点として日本列島の歴史的位置づけを再構築することを目的としています。具体的には古代東ユーラシア地域における人の移動、および前近代日本の外来文化の受容において、その移植・仲介者となった渡来者集団などに焦点を当てて、その＜流動と土着＞化の歴史的経緯や意義について研究を行います。したがって、主たる研究対象としては、①隋・唐からの来日外国人、②朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究、③ベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化、④中世・近世における来日外国人の伝来文化の4つを設定しました。

今回の研究プロジェクトでは、前回の「東アジア」から「東ユーラシア」へと研究対象地域を広げたことにより、研究の視点が多様化・分散化してしまい、相対化するのが困難になることも予想されます。これらの問題点を克服していくことが本プロジェクトの大きな課題といえます。例えば、考古学では「人流」について「物流」からアプローチしています。日本列島では古墳時代中期ごろから馬文化が導入・定着していきませんが、その直接的な系譜は朝鮮半島に求められません。朝鮮半島における馬文化の歴史は日本列島よりもはるかに古く、多種多様な馬文化が中国大陸から入ってきたことが明らかになっています。とくに近年、朝鮮半島南部の金海・大成洞古墳群では中国東北部の三燕系馬具が4世紀代の古墳から出土しています。これらの馬具は漢式馬具とは明らかに異なるもので、鮮卑など北方ユーラシアとの関係が指摘されています。馬文化は北方ユーラシアを駆け抜けて確実に日本列島にまで達しています。その歴史的背景については、やはり「東ユーラシア」の動態から解明していくことが必要ではないでしょうか。

本研究プロジェクトの初年度となる今年度は、まず2014年11月29日に第1回シンポジウム「古代東ユーラシア地域と朝鮮・日本」を開催し、文献史学と考古学の立場から北方ユーラシアにおける人流や日本列島における渡来人の問題について報告していただきました。また、本研究プロジェクトの主たる研究対象の一つである「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」を推進するため、2014年12月27日～30日に渡来人の出身地の一つである韓国・百済地域の資料調査を行いました。今回の『年報』第1号は、第1回シンポジウムの報告内容を中心に特集を組み、これに新発見の唐代墓誌に関する論文と韓国資料調査報告を加えて編集しました。ご寄稿いただきました諸先生方にあらためて感謝申し上げます。

本プロジェクトでは来年度も複数回のシンポジウムや研究会を開催する予定です。その成果については次年度の『年報』で報告いたします。本プロジェクトに関して、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

(高久健二)